議案第 54 号「令和 7 年度多賀城市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について」、議案第 55 号「令和 7 年度多賀城市下水道事業会計未処分利益剰余金の処分について」、議案第 56 号「令和 7 年度多賀城市一般会計決算及び各特別会計決算の認定について」、議案第 57 号「令和 7 年度多賀城市水道事業会計決算の認定について」、議案第 58 号「令和 7 年度多賀城市下水道事業会計決算の認定について」の各議案に対し、自由民主党多賀城市議団を代表し、賛成の立場から討論いたします。

令和 7 年度は、第六次多賀城市総合計画前期基本計画の最終年度でありました。計画策定時には予測が難しかった物価高騰や、それに伴う賃金上昇が進む中での最終年度となりました。ちなみに計画初年度の令和 3 年度と比較すると、人件費は約 5 億円、扶助費は 7 億円以上増加しております。
そのような状況下で迎えた令和 7 年度の一般会計及び特別会計の決算総額は、前年度と比べると歳入で約 21 億円、歳出で約 24 億円の減少となっていますが、昨年度の基金再編分を除けば、いずれも前年度を上回っております。
一般会計の実質収支は 1 億 305 万 3 千円の黒字となりました。しかし、単年度収支では 1 億 5,004 万 4 千円の赤字となります。物価高騰により経費が嵩む中、小学校環境整備事業や市庁舎耐震対策等事業など、公共施設の更新が進んでいることを勘案すると、これは物価高騰下で公共施設更新を着実に進めた結果であり、むしろ健全な投資として評価すべき数字であります。
当初予算では財政調整基金から約 10 億円の繰り入れを見込んでいたものが、結果として 2 億円に抑えられたことは、職員の皆様の不断の努力と、国・県補助金、有利な起債の的確な活用の成果であります。この点は強く評価いたします。
決算委員会では、TAGAJO CENTRAL PARK の第 2 世代交付金辞退に関する質疑がありました。その中で竹谷英昭委員から「職員の努力が誤解されぬよう、決算書に時系列で表記すべき」との意見がありましたが、適切な情報整理は理解を深め、職員の挑戦を正当に評価することにつながります。今後も、財政負担を軽減する選択肢を積極的に追求していただきたいと強く期待します。

市債については、借入額が償還額を上回りましたが、大半が交付税措置されるとのことでした。これは有利な起債を戦略的に活用した結果であり、適切な財政運営が行われていると判断します。

各種事業に目を向けますと、令和 8 年 3 月には Park-PFI 方式で整備を進めてきた TAGAJO CENTRAL PARK がオープンしました。直後から市内外問わず多くの方で賑わっており、喜ばしく思います。すでに様々な課題に対して改善に向けた取り組みが進められているとのことですので、今後ますます発展し、多賀城の新しい顔となることを期待いた

します。
ヤングケアラー支援事業は、全国的課題に対し本市が一歩踏み出した重要な取り組みです。アンケート結果をもとに必要な支援につなげている点を高く評価します。
令和７年度に実施した物価高騰対策事業では、全市民を対象とした現金給付に加え、生活応援ポイント支給事業も行われました。迅速な対応ができるとの説明でしたが、副次的な効果も多く、決算質疑ではデジタルならではの分析、例えばポイントの利用場所なども把握できていました。デジタルの強みを活かした今後の活用にも期待いたします。

国民健康保険事業については、被保険者の減少に伴い歳入・歳出ともに減額となりましたが、一人当たりの医療費はほぼ横ばいです。特定健康診査や特定保健指導などによる重病の早期発見やリスク低減の取り組みを引き続きお願いいたします。

介護保険事業では、要支援１から要介護２に認定される方が増えております。必要な方に必要な支援が届いている結果として評価いたします。また、認知症サポーター養成講座を小中学校で実施するなど、若い世代から理解と支援の輪を広げる取り組みは非常に良い事業であり、今後も介護予防と併せて支援の輪を広げる取り組みとして期待いたします。

水道事業については、市が把握している鉛製給水管の更新が完了したことは大きな節目であります。また、給水人口が減少する中でも正味運転資本残高を計画値以上に積み増しできている点は、経営努力として評価いたします。現在の環境を維持しながら設備更新を進め、さらに岡田水源廃止に伴う除却や給水人口の減少を考慮すると、現在の残高は過大ではないと考えます。安定した経営を今後もお願いいたします。

下水道事業については厳しい状況が続いていますが、使用料単価と汚水処理単価の差額が改善されたことは評価いたします。今後も設備の維持に加え、施設改修や新たな対策が進められることと思いますので、より一層の経営努力を期待いたします。

総じて、令和７年度決算は、物価高騰・人件費増の中にあっても、現在の課題に対処しつつ、未来に向けた設備更新や財政運営が適切に行われたと評価し、議案第54号から第58号まで、賛成の討論といたします。